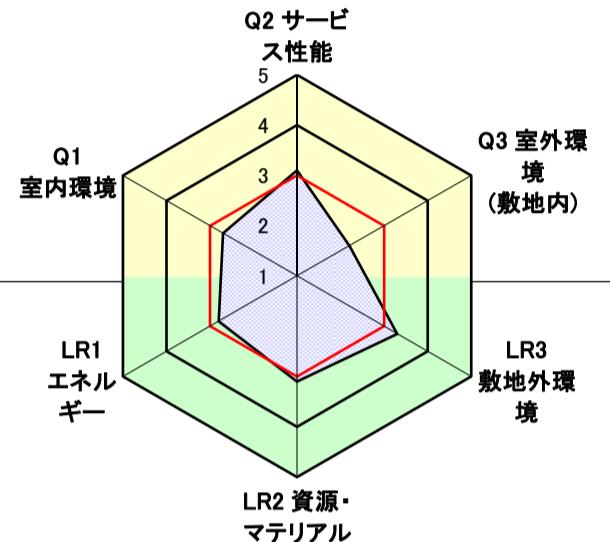
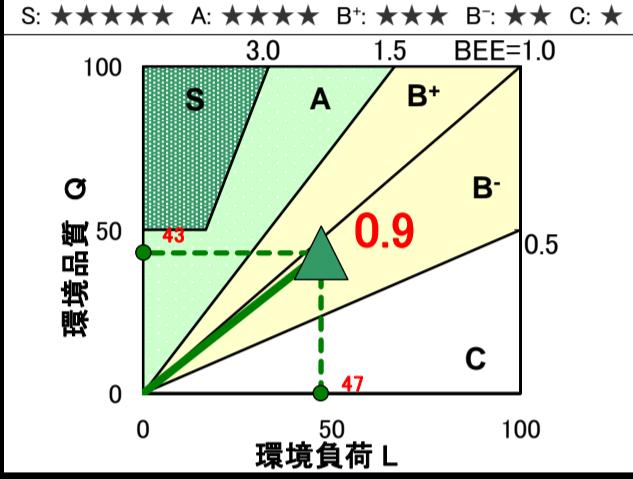
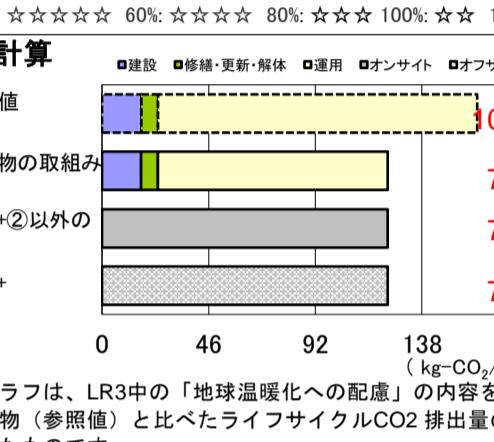


# CASBEE あいち

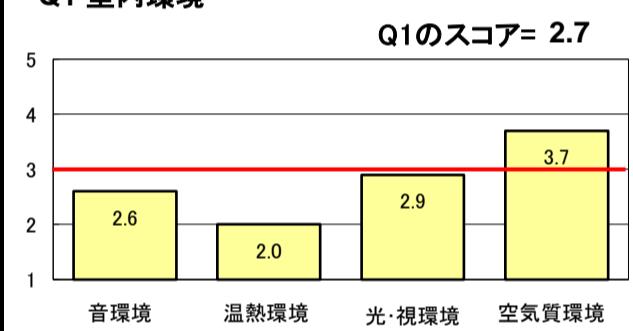
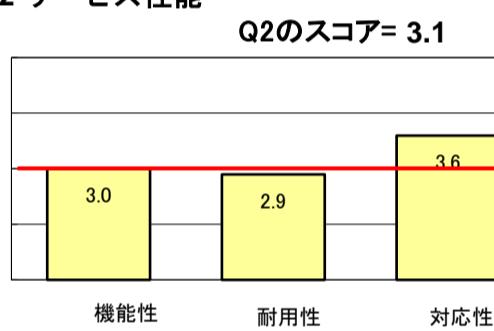
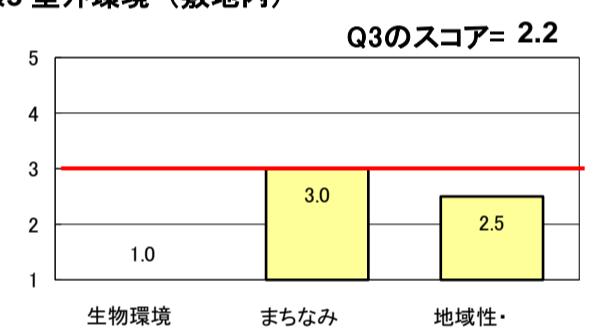
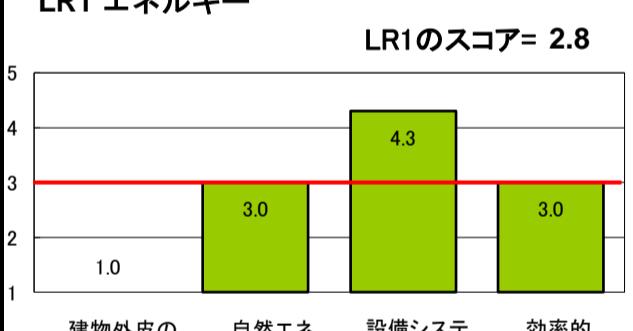
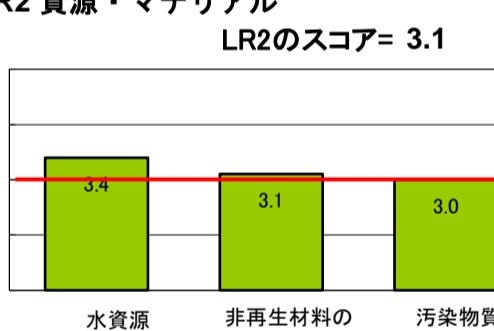
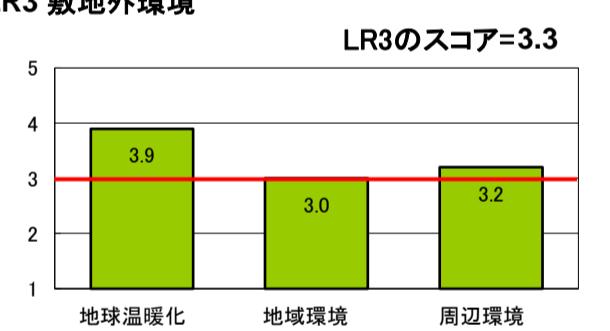
■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き ■使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ビバモール一宮	階数	地上3階
建設地	愛知県一宮市羽衣2丁目5番1、5番2	構造	S造
用途地域	商業地域	平均居住人員	0人
気候区分	6地域	年間使用時間	0時間/年
建物用途	物販店・飲食店・工場等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年1月 予定	評価の実施日	2021年2月7日
敷地面積	48,171 m <sup>2</sup>	作成者	岡田 篤
建築面積	24,501 m <sup>2</sup>	確認日	2021年2月7日
延床面積	48,637 m <sup>2</sup>	確認者	岡田 篤

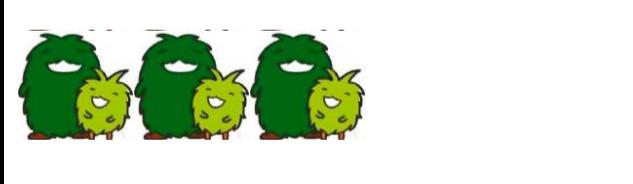
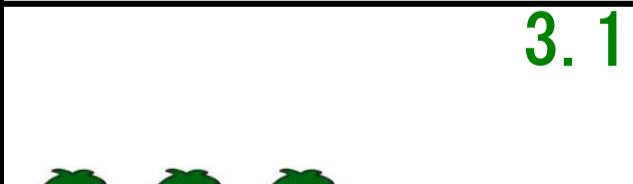
  

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)	
BEE = 0.9			30%: ★★★☆☆ 60%: ★★★☆☆ 80%: ★★★☆ 100%: ★☆ 100%超: ☆		
 <p><b>BEE = 0.9</b></p> <p>S: ★★★★☆ A: ★★★★☆ B+: ★★★★ B-: ★★ C: ★</p> <p>Y軸: 環境品質 X軸: 環境負荷 L</p> <p>点線で示す目標値: S (43), A (47), B+ (43), B- (47), C (43)</p>		 <p>標準計算</p> <p>①参照値: 100% ②建築物の取組み: 76% ③上記+②以外の: 76% ④上記+: 76%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したもの</p>			

2-4 中項目の評価(バーチャート)					
<p><b>Q 環境品質</b></p> <p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア= 2.7</p>  <p>音環境: 2.6 溫熱環境: 2.0 光・視環境: 2.9 空気質環境: 3.7</p> <p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア= 3.1</p>  <p>機能性: 3.0 耐用性: 2.9 対応性: 3.6</p> <p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> Q3のスコア= 2.2</p>  <p>生物環境: 1.0 まちなみ: 3.0 地域性・: 2.5</p>					
<p><b>LR 環境負荷低減</b></p> <p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア= 2.8</p>  <p>建物外皮の自然エネ: 1.0 設備システム効率的: 4.3</p> <p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア= 3.1</p>  <p>水資源: 3.4 非再生材料の: 3.1 汚染物質: 3.0</p> <p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア= 3.3</p>  <p>地球温暖化: 3.9 地域環境: 3.0 周辺環境: 3.2</p>					

3 重点項目			
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	3.9	1.0
			外構緑化指標(外構緑化面積/外構面積) 5.7 %
②資源の有効活用	④地域材の活用	3.1	1.0
			建物緑化指標(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
②資源の有効活用  
③敷地内の緑化  
④地域材の活用

中高木の樹冠の水平投影面積+低木・地被等の植栽面積  
外構緑化指標 = 敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた × 100

屋上緑化面積+壁面緑化面積  
建物緑化指標 = 建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積) × 100



スコアシート	実施設計段階	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	全体	
				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	
配慮項目	重点項目								
Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル									
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能				0.1	2.6	0.15			2.7
2 界壁遮音性能				3.0	3.0	0.40			2.7
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				0.4	3.0	0.40			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音									2.6
2 溫熱環境									
2.1 室温制御									
1 室温				0.3	2.0	0.35			2.0
2 外皮性能				0.5	3.0	0.50			
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.48			
2.2 湿度制御				3.0	3.0	0.18			
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.34			
3 光・視環境									
3.1 昼光利用				0.2	2.9	0.25			2.9
1 昼光率				0.5	2.8	0.51			
2 方位別開口				3.0	1.0	0.10			
3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.90			
3.2 グレア対策				0.2	-	-			
1 昼光制御				5.0	-	-			
3.3 照度				3.0	3.0	0.03			
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.47			
4 空気質環境				0.2	3.7	0.25			3.7
4.1 発生源対策				0.5	4.0	0.50			
1 化学汚染物質				3.0	4.0	1.00			
4.2 換気				0.3	3.0	0.30			
1 換気量				3.0	3.0	0.50			
2 自然換気性能				3.0	-	-			
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.50			
4.3 運用管理				0.2	4.0	0.20			
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	5.0	0.50			
2 喫煙の制御				3.0	3.0	0.50			
Q2 サービス性能									
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.0	0.40			3.0
1 広さ・収納性				3.0	-	-			
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-			
3 バリアフリー計画	独自			3.0	3.0	1.00			
1.2 心理性・快適性				0.3	2.6	0.30			
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	4.0	0.34			
2 リフレッシュスペース				3.0	3.0	0.32			
3 内装計画				3.0	1.0	0.34			
1.3 維持管理				0.3	3.5	0.30			
1 維持管理に配慮した設計				3.0	4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保				3.0	3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性				0.3	2.9	0.31			2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.0	0.33			
1 車体材料の耐用年数				3.0	-	0.23			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	-	0.23			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	-	0.09			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	-	0.08			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	-	0.15			
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	-	0.23			
2.4 信頼性				0.1	2.6	0.19			
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20			
3 電気設備				3.0	3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				3.0	1.0	0.20			
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20			

3 対応性・更新性	②	階高を各階3.9m以上としている。 0.1 ≤ [ 壁長さ比率 ] < 0.3	0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6
			0.3	5.0	0.31	-	-	-	
			-	5.0	0.60	-	-	-	
			3.0	5.0	0.40	-	-	-	
			3.0	3.0	0.31	-	-	-	
			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.32	-	-	-	2.2
			-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
			-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
			-	3.0	0.50	-	-	-	
			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.1
			-	0.40	-	-	-	-	2.8
			BPI=1.14	3.0	1.0	0.28	-	-	1.0
			-	3.0	3.0	0.18	-	-	3.0
			BEI=0.72	3.0	4.3	0.33	-	-	4.3
			-	0.2	3.0	0.20	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	1.0	3.0	1.00	-	-	
			-	3.0	3.0	0.50	-	-	
			-	3.0	3.0	0.50	-	-	
			-	-	-	-	-	-	
			-	-	-	-	-	-	
			-	-	-	-	-	-	
4 効率的運用			-	0.1	3.4	0.15	-	-	3.1
			-	3.0	4.0	0.40	-	-	
			-	0.6	3.0	0.60	-	-	
			-	3.0	3.0	0.67	-	-	
			-	3.0	3.0	0.33	-	-	
			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.1
			-	0.1	3.4	0.15	-	-	3.4
			-	3.0	4.0	0.40	-	-	
			-	0.6	3.0	0.60	-	-	
			-	3.0	3.0	0.21	-	-	
			-	3.0	3.0	0.21	-	-	
1 水資源保護			-	3.0	3.0	0.50	-	-	
			-	3.0	3.0	0.50	-	-	
			-	-	-	-	-	-	
			-	-	-	-	-	-	
			-	-	-	-	-	-	
			-	-	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			-	0.6	3.1	0.63	-	-	3.1
			-	-	2.0	0.07	-	-	
			-	-	3.0	0.25	-	-	
			-	-	3.0	0.21	-	-	
			-	-	3.0	0.21	-	-	
			-	-	3.0	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			-	0.2	3.0	0.22	-	-	3.0
			-	3.0	3.0	0.32	-	-	
			-	0.6	3.0	0.68	-	-	
			-	-	-	-	-	-	
			-	-	3.0	0.50	-	-	
			-	-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.3
			-	3.9	0.33	-	-	-	3.9
			-	0.3	3.0	0.33	-	-	3.0
			-	-	3.0	0.25	-	-	
			-	-	3.0	0.50	-	-	
			-	-	5.0	0.25	-	-	
1 地球温暖化への配慮	①		-	-	1.0	0.25	-	-	
			-	-	3.0	0.33	-	-	
			-	0.3	3.0	0.33	-	-	
			-	-	3.0	0.25	-	-	
			-	-	3.0	0.50	-	-	
			-	-	5.0	0.25	-	-	
2 地域環境への配慮			-	-	1.0	0.25	-	-	
			-	-	3.0	0.25	-	-	
			-	-	3.0	0.50	-	-	
			-	0.2	3.0	0.25	-	-	
			-	-	3.0	0.25	-	-	
			-	-	5.0	0.25	-	-	
2.1 大気汚染防止			-	-	1.0	0.07	-	-	
			-	-	3.0	0.25	-	-	
			-	-	3.0	0.21	-	-	
			-	-	3.0	0.21	-	-	
			-	-	3.0	-	-	-	
			-	-	3.0	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	-	3.0	0.50	-	-	
			-	-	5.0	0.25	-	-	
			-	-	5.0	0.25	-	-	
			-	-	5.0	0.25	-	-	
			-	-	5.0	0.25	-	-	
			-	-	5.0	0.25	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			-	-	5.0	0.25	-	-	
			-	-	5.0	0.25	-	-	
			-	-	5.0	0.25	-	-	
			-	-	5.0	0.25	-	-	
			-	-	5.0	0.25	-	-	
			-	-	5.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			-	0.3	3.2	0.33	-	-	3.2
			-	0.4	3.0	0.40	-	-	
			-	3.0	3.0	0.33	-	-	
			-	3.0	3.0	0.33	-	-	
			-	0.4	3.0	0.40	-	-	
			-	3.0	3.0	0.70	-	-	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	-	3.0	0.30	-	-	
			-	-	4.4	0.20	-	-	
			-	-	5.0	0			

**重点項目スコアシート**  
ビバモール一宮

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.9</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.1</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:5.7%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化  
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点 × 全体に対する重み)の総和  
重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用  
重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■建物名称 ビバモール一宮

計画上の配慮事項	
総合	名古屋鉄道 名鉄一宮駅から徒歩18分の商業地域に、物販店・飲食店・サービス店舗・保育所等の複合用途の計画をした。
Q1 室内環境	ゆったりとした空間の創出に配慮します。また、壁・天井の仕上げ材等に関してもF☆☆☆☆の材料を使用し、有害物質の発散を小さく抑える様に配慮しました。
Q2 サービス性能	天井高さを3.5m以上を確保し、広さ感、開放感のある空間を創出した。
Q3 室外環境(敷地内)	計画敷地内には出来るだけの植栽を計画し、周囲の環境に配慮した計画をした。
LR1 エネルギー	照明機器はLED機器を採用し、空調機器に関してはCOPの高い機器を採用しました。
LR2 資源・マテリアル	躯体+軽鉄+仕上材のディテールを採用。
LR3 敷地外環境	空調機器はノンフロンの冷媒を採用し、排熱に関しても直接道路に排出しない様に配慮しました。
その他	特にありません。